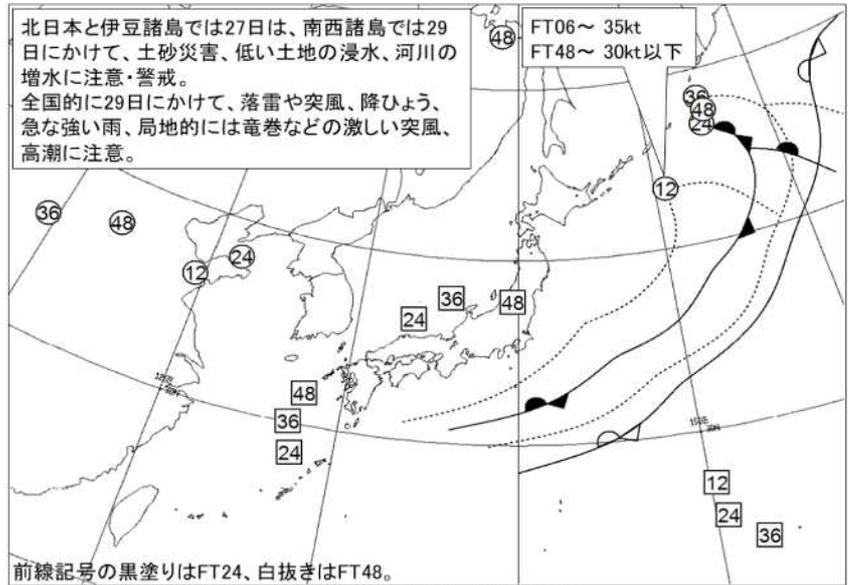


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5760m付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、北海道の東を東北東進する低気圧から、前線が東～西日本太平洋側にのびている。低気圧や前線に向かう下層暖湿気及び上空寒気の影響で、日本の東～東海道沖で雷を多数検知、激しい雨を解析、津軽海峡付近でも激しい雨を解析。
- ② 日本のはるか東に中心を持つ高気圧が、日本の南に張り出している。
- ③ 300hPaで-30℃以下の寒気を伴う上層寒冷低気圧 (UCL) が沖縄の南を西進。上空寒気と②の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、沖縄近海では、雷を検知、猛烈な雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 27日は、500hPa 5640m以下で-12℃以下の寒気を伴う寒冷渦が、オホーツク海から千島近海に進み、気圧の谷が北海道地方を通過する。上空寒気と気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意し、短時間強雨に注意・警戒。
- ② 1項①の低気圧は、2項①の寒冷渦前面で閉塞しながら27日夜にかけて千島近海に進み、その後29日にかけて停滞する。低気圧からのびる前線は、27日は伊豆諸島付近を南下し、28日は低気圧から切り離されて小笠原諸島近海に南下し、29日にかけて停滞する。前線に向かう下層暖湿気の影響で、伊豆諸島では27日は、小笠原諸島では28～29日は大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。伊豆諸島では27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。
- ③ 日本の南の500hPa 5880m以上の高度場が、29日にかけて西日本付近に張り出しを強め、日本付近は、これに対応した背の高い高気圧に覆われる。晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意 (熱中症警戒アラートを参照)。また、日中の昇温や高気圧の縁を回る下層暖湿気の影響で、午後を中心に大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ④ 1項③のUCLは、27日夜には台湾海峡付近に進む。南西諸島では、上空の寒気や2項③の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。② 波浪(明日まで) : 高い所 (3m以上) はない。③ 高潮(明日まで) : 大潮の時期。北～西日本と南西諸島では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。